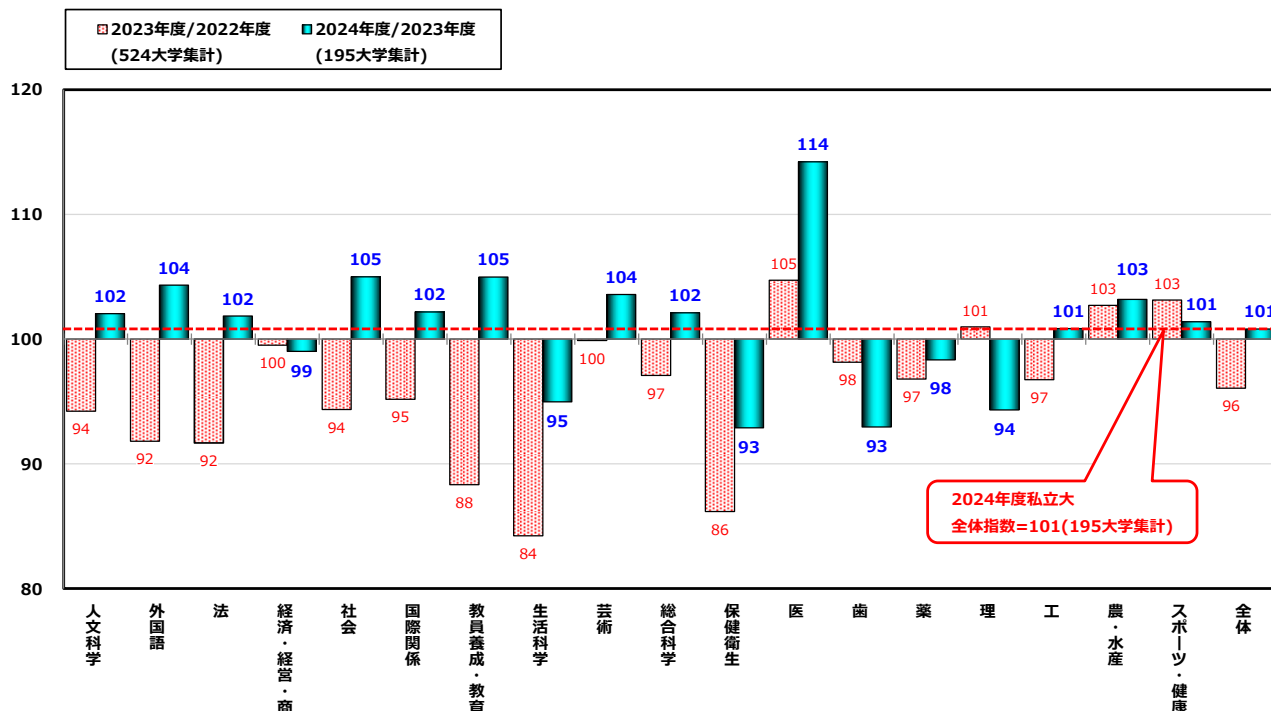


※本文中の( )内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

## ◎系統別志願状況・合格状況

□志願者数は医が増加、社会、教員養成・教育、外国語、芸術、農・水産がやや増加  
保健衛生、歯、理、生活科学がやや減少

### 〔私立大一般選抜 系統別志願状況〕



系統別では、前年度対比で医(114)が増加、社会(105)、教員養成・教育(105)、外国語(104)、芸術(104)、農・水産(103)がやや増加となっています。一方で、保健衛生(93)、歯(93)、理(94)、生活科学(95)がやや減少となっています。

医の増加は、コロナ禍の収束に伴い、受験生のコロナ対策として首都圏私立医科大への併願校数絞り込み緩和と新課程入試を前に安全志向から併願校数増加の影響がみられます。文系の社会(105)、外国語(104)はやや増加で、いずれもコロナ禍の影響による志願者数減少の反動がみられます。

文理両方から志望のある系統では、教員養成・教育(105)もやや増加で、前年度減少の反動がみられます。また、芸術(104)がやや増加です。一方で、生活科学(95)はやや減少で、前年度大幅減少の反動はなく、設置の多い女子大への低い人気も反映しており、さらに他系統の学部への改組が行われている影響もあります。

集計大学数はまだ少ないメディカル系の歯(93)のやや減少は医への高い人気とは対照的です。保健衛生(93)もやや減少で、資格取得系であることから特定の大学にこだわらず手堅く入学を確保できる「年内入試」志向の影響がみられます。

理系では、理(94)はやや減少で、近年の高い人気の反動がみられます。農・水産(103)は前年度のやや増加に引き続きやや増加で、高い人気が続いています。

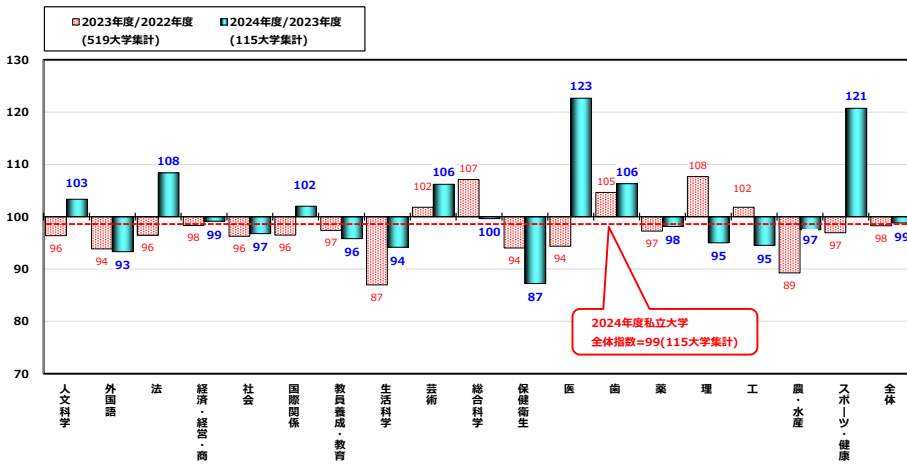
他の系統は前年度並(98～102)となっています。

以上のように、近年の一般選抜における「理高文低」の状況から、一転して文系の反動増が目立つ動向となっています。

□合格者数はスポーツ・健康が大幅増加、法が増加

保健衛生が減少、外国語、生活科学、理、工、教員養成・教育、社会、農・水産がやや減少

〔私立大一般選抜 系統別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の系統別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

駿台が集計した私立大115大学の合格者数(99)は前年度並でした。系統別で見るとまだ発表の少ない医(123)、歯(106)を除くと、スポーツ・健康(121)は大幅増加、法(108)は増加、芸術(106)、人文科学(103)はやや増加でした。

一方で、保健衛生(87)は減少、

外国語(93)、生活科学(94)、理(95)、工(95)、教員養成・教育(96)、社会(97)、農・水産(97)はやや減少でした。

次に、「合格者指数－志願者指数」の値を見ると、18系統中10系統がマイナスで合格者指数が志願者指数を下回り、競争激化の系統が多くなっています。特に、外国語[-11]、教員養成・教育[-9]の競争激化が目立っています。一方で、スポーツ・健康[+19]、法[+7]は競争緩和です。